

日本大学鶴ヶ丘高等学校同窓会誌

Izumi

2019年 12月

演劇部全国大会出場

Historia 鶴ヶ丘

部活の歴史

インタビュー / 中野優子先生
お店訪問 ほか



インタビュー 活躍する同窓生 豊田チカさん

ジャズボーカリストとして40年。1980年卒業の豊田チカさん

母校でキャリアガイダンスの講師も担っています。2020年初春にはニューヨークで17年ぶりにライブを開催します。音楽が好きで音楽を追い求めてきた豊田チカさんに語っていただきました。



お店訪問 市ヶ谷 みやらび

市ヶ谷駅から九段方向に歩いて約8分、沖縄宮廷料理の「みやらび」があります。1977年卒の苅部裕美子（旧姓・田辺）さんのお店です。近くには日本大学本部や同窓生の勤めている会社も少なくありません。沖縄の伝統と文化を守り創作するお店紹介です。

2019年号の表紙「書道部」

母校書道部による『書道パフォーマンス』です。表紙は2019年の鶴ヶ丘祭で開催したものをバステル調にしたものです。

部員数は10名、活動日は月・水・木曜日。鶴ヶ丘祭などでの書道パフォーマンスをはじめ、体育祭の部活動対抗リレーに参加。

11月にはデンマークから来日された交流学生の皆さんに日本の文化を紹介しようということで、書道を体験してもらいました。最初はクイズ形式でみなさんの名前に漢字を当ててみました。その後実際に、墨と筆を使って漢字を書いてもらいました。とのことでした。





TOPICS 中野優子先生

母校国語科の教員としてお勤めになられた中野優子先生、明るく闊達なお人柄に様々な思い出をお持ちの同窓生も多いと思います。先生に当時を振り返っていただき『部活動』の在り方を中心にお話を伺いました。

特集 演劇部

2019年7月に「第43回全国高等学校文化祭」に出場しました。演劇部は長い歴史とともに、今につながる母校の文化活動を担っています。全国大会出場インタビュー、輝かしい歴史を写真とその時々の顧問の先生方の文章で紹介します。

P.14 Historia鶴ヶ丘～昭和時代の部活動

P.24 鶴高の今を知る

P.26 同窓会からのお知らせ

同窓会への連絡先

同窓会へ下記のお問い合わせ先です。

- ・住所などの個人情報の変更お届け
- ・維持会費、寄付に関すること
- ・子女の母校への入学に関すること
- ・同窓会へのご意見
- ・クラス会、同期会等の開催情報
- ・思い出の品に関する情報
- ・頒布品サービスに関すること

【事務局】

住 所：〒168-0063 東京都杉並区和泉 2-26-12

日本大学鶴ヶ丘高等学校 同窓会事務局

メールアドレス：tsurugaoka@ntdosokai.org

ホームページ：http://www.ntdosokai.org

QRコードよりアクセスできます。

【維持会費・寄付金の振込先】

P.26 に掲載している振込先までお願いします。



2019年1月に開催された「第54回 関東高等学校演劇研究会」で母校演劇部が最優秀賞^{※1}を受賞しました。そして7月には「第43回全国高等学校文化祭」^{※2}に出場しました。演劇部は長い歴史とともに、今につながる母校の文化活動を担っています。全国大会出場のインタビュー、輝かしい歴史を写真とその時々顧問の先生方の文章で紹介します。

※1: 2019年1月19・20日に開催。文部大臣賞、全国高等学校演劇協議会会長賞、関東高等学校演劇協議会会長賞、創作脚本賞を受賞

※2: 2019さが総文 2019年7月27日～29日に佐賀県で開催



全国大会への出場の報を聞いたのは今年の一月。同窓会ではすぐに全国大会への取材が決定。開催日前日は台風が九州に接近していて、出発が危ぶまれていましたが無事に到着。蝉しぐれのなか佐賀県鳥栖市の鳥栖市民文化会館に向かいました。

顧問である村山大輔先生(作者名としては「むらやまだいすけ」の創作による「屋上の話」を観劇し、上演後は部員と、村山先生にインタビューさせていただきました。なお、上演中の写真は大会規則により撮影できないため、今年の鶴ヶ丘祭で上演された同じ演目の写真などを使用しました。

村山大輔先生インタビュー

— 全国高等学校演劇大会で東京代表になられた時のお気持ちをお聞かせ下さい。

村山 東京都の高校演劇部はおよそ200校あり、その代表として、また、関東大会で激戦区である神奈川、千葉、静岡、茨城も合わせた関東代表になったことは大変光栄でしたが、まず生徒に対する感謝の念が強かったのを記憶しています。生徒は私の書いた本を信じてくれ、理解し、形にしてくれました。しかも、私の想像を超えるものを作り出してくれました。この生徒たちと活動できる喜びを強く感じていたのを覚えています。

— その時の部員(生徒)達の様子はいかがでしたでしょうか。

村山 都大会でも関東大会でも最優秀賞で名前が呼ばれても、「う」という感じで、自分たちが何の賞をもらったのかを理解するまで5分くらいかかりました。結果はあまり重要ではなく、とにかく観客を楽しませることを信条としているので、「あーそうなんだー」という感じで受け止めていました。その後、日を追うごとにプレッシャーは感じていたようでした。不安の方が大きかったように思います。

— 2019佐賀総文で演目が終了した時のお気持ちをお聞かせ下さい。

村山 今回の全国大会で7度目の「屋上の話」でした。そのなかで今回がベストアクトでした。最後の最後にしっ

かり決めてくれた生徒を誇りに思いました。また、楽屋で会えたら今まで以上に褒めてあげようと思えました。生徒はほっとした様子でした。上演中に電話が鳴るなどのハプニングがあり、多少憤慨していましたが、とにかく良い形で終わってよかったという安心感がありました。しかしそれも束の間、もうこのメンバーで芝居ができないさみしさを感じ、宿舍での夕食は涙涙でした。

— 演劇部は長い歴史をお持ちです。その中で活躍しているお気持ちをお聞かせ下さい。

村山 日鶴の顧問だというと高校演劇界では驚かれることが多いです。米本先生は伝説になっています。その芝居も人柄も多くの人に愛された方です。また、多くの有名な卒業生もおり、全国大会はたくさんの方に声をかけていただき、様々なお話を聞くことができました。その中で私たちは「ほんと出」なので、活躍している実感がなく、とにかく運で全国に出られているので、精進してやっていくしかないと思っています。

— これからの展望等をお聞かせ下さい。

村山 これからも生徒に当て書きするスタイルを続けていけたらと思っています。オリジナルの役を書いて、結果より、高校生活の思い出の一つになってくれたらという思いで書いています。「生モノの思い出」を作ることが

演劇部 34年ぶりの全国大会出場

創部にさかのぼり67年の歴史を紹介



顧問としての役目だと思っています。これからも続けて、また運が良い時期が来たらいいなと思います。また、これからはとにかくコメディに傾倒しようと考えています。難しいことは世の中多いですが、演劇の世界くらいでは笑っていたい。そんな思いで、生徒と気持ちを共有しながら進んでいこうと思います。

— 演劇部の現在の活動状況を教えてください。

村山 部員数は1年12名・2年10名・3年8名です。活動は毎週、月水金の3回、合宿は行っておりません。現在は地区大会に向けて稽古しています。楽しく和気あいあいとしながらも、観客第一は変わらず稽古しています。

— 演者以外に例えば照明や演出など、裏方としてはどのような仕事があるのでしょうか？

村山 照明は、台本を読んで、シーンに合う照明を考えます。照明も会場によって設備が異なるため、そのことも勘案して明かりを作ります。音響もシーンに合う音響を探しますが、場合によっては、実際の音を何パターンも録音し、自ら作ることもあります。以前はボートの音が欲しかったので、井之頭公園まで行って録音していました。そのほか、小道具、大道具、衣装の買い出し、劇場への提出資料やチラシの作成も裏方の仕事です。演出は、劇に関して総合的に判断する仕事です。役者の演技プランや上記の照明や音響

などの決定を行います。

— 『屋上のお話』のストーリーを簡潔に教えてください。

村山 屋上で自殺をしようと考えて一人の少女を演劇の力で救おうとする話です。

— オリジナル作品を演じることへのこだわりはあるのでしょうか？ また、それは当て書きへの影響も関係しているのでしょうか？

当て書きする意味は、生徒の個性を生かしたいという思いからでした。個性といっても、一般的に良いもの、悪いと考えられるものなど様々だと思えます。そのような個性を舞台で生き生きと表現してもらいたいと考えています。そのような生徒を主眼に置いて書いたオリジナル作品は、今の生徒でできない特別なものになると思えます。私の目標は、「一生モノの思い出を作ること」です。大人になっても語れる思い出を作ることがオリジナルへのこだわりだと思います。

— 他校の上演をご覧になって何を感じられましたか？

村山 全国大会だったので、どれも粒ぞろいだと感じました。テーマや種類の違う演劇でそれぞれ競うあうのが演劇の大会ですが、これほど異種格闘技的に感じたことはなかったです。



生徒インタビュー

上演が終わったあと、会場のロビーで演劇部の皆さんに伺いました。

● 役作りに苦労した話が多く…

「今回、おばさん役になって、先輩バスケ部員のコミカルな役から、シリアスな役が変わったので、悩みました。大変だと思いましたがメンバーに助けをもらって演じることができました。他のメンバーもとても良い演技をしていました。」笑わせる役でしたので、観てくれる人たちが笑ってくれて良かったです。ホッとしました。「役作りはすごく大変でしたけど、回りの人達がフォローしてくれました。大きな大会でも役になりきれて良かったです。」

● 皆さん役者なのですね。苦労も多いようで…

「高校から演劇を始めて、初めてもらった役でしたけどセリフも多く動きも大きかったので大変でした。でも回を重ねるごとに色々わかってきて、一番良い演技ができました。」笑ってもらうことにこだわって一生懸命、頑張ろうって思ってたんですけど「早口なので相手にキチンとセリフを伝えられるように心掛けました。不思議なキャラクターだったので不思議な雰囲気を出せるように頑張りました。」

● もちろんスタッフでも…

「リアルに近い照明にしようと心掛けました。」最後だけの音だだったので、その分きちんとやらなくてはと思いがんばりました。」

● その様な中でも、結束の強い部員達でした…

「二年間で役が変わったけれど、みんなでも対応してやってこれました。お客様の反応も良かったですし、このメンバーでできて良かったです。」高校演劇では一年間というのは長い期間。同じ舞台を演じてきましたが、その分たくさんの人たちに観てもらえたことは良かったですし、仲間達ともより親しくなれてとても良かったと思います。あつという間の一年間でした。「最初から全国大会だけに向けてでなく、その場その場でのお客さんへ向けて舞台を作ってきました。その結果が全国大会で、緊張もありましたけど、みんながいつも通りのパフォーマンスができて良かったです。」このメンバーでできたことは幸せでした。楽しかったです。」

部員達の仲間意識が強く、仲の良さが伝わってきたインタビューでした。先輩が後輩を思いやり、同級生同士が助け合い、とても楽しんで部活動をしているように思いました。」



活動記録

- 1955年(昭和30年) 水沢草田男作「谷の音」 東京都演劇コンクール初出場
1964年(昭和38年) W・ジェーコブス作「猿の手」 第10回全国大会初出場
1966年(昭和41年) F・アラバール作「戦争のピクニック」 第13回全国大会出場
1972年(昭和47年) 椎名麟三作「荷物」 第18回全国大会出場
1973年(昭和48年) 大江健三郎作「動物倉庫」 第19回全国大会出場
1976年(昭和51年) 椎名麟三作「無邪気な犯罪」 第22回全国大会第三位
1977年(昭和52年) ドルスト作「城壁の前の大いなる弾劾」 第23回全国大会優勝
1978年(昭和53年) 別役実作「にしむくさむらい」 第24回全国大会出場
1982年(昭和57年) 町井陽子作「柳(りゅう)」 第28回全国大会第二位
1983年(昭和58年) 榎原政常作「夏のよばなし」 第29回全国大会第四位
1984年(昭和59年) 別役実作「小さな家と五人の紳士」 第30回全国大会第二位
1985年(昭和60年) 小野小町作「りんご姫」 第31回全国大会出場
1989年(平成元年) 町井陽子作「わが山月記」 関東大会出場
1990年(平成2年) 初谷康正作「ハムレットはマクベスを殺せるか」 関東高校演劇フェスティバルに出演
(※編集者注:引用元まま)
1991年(平成3年) 別役実作「不思議な国のアリスの帽子屋さんのお茶の会」 全国高校演劇優勝校公演(国立劇場)に出演
1994年(平成6年) 竹内統一郎作「みず色の空、そら色の水」 東京都大会において第1回米本一夫記念賞を受賞
1996年(平成8年) 別役実作「卵の中の白雪姫」 関東ハイスクール・ドラマ・スペシャルに出演
1997年(平成9年) 木村雷太作 東京都大会出場
(この間は不明)
2019年(令和元年) むらやまだいすけ作「屋上の話」 第65回全国大会出場

演劇部は、国語科の米本一夫先生により、昭和27(1952)年に創部されました。今年で67年目となります。歴代顧問の先生方の言葉と全国大会などへの出場記録を紹介します。全国大会出場は今回で12回目となります。高校演劇の名門校として知られている広島市立舟入高等学校と並び最多出場校です。

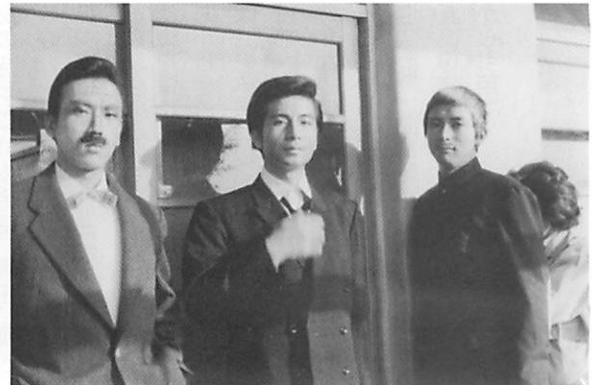


演劇部顧問として、二十八年の歳月がすぎた、この間、大きな喜びも悲しみも味わった。大きな喜びとは、昭和五十二年(一九七七年)に千葉県船橋市で開催された第二十三回全国演劇コンクール(全国大会)で、ドルスト作「城壁の前の大いなる弾劾」を上演し、念願の優勝を果たしたことである。実に全国大会六度目の挑戦であった。高校演劇の全国大会は、前年度に地区大会、都道府県大会、ブロック大会が行われ、それを勝ち抜いた十一校で翌年度に行われるために二年間にわたったの戦いになる。三年生は卒業し、役者も変わるという部員や顧問にとっては大変な難行であり、それゆえに勝利の喜びも格別のものがあった。

大きな悲しみは、平成四年四月に米本一夫先生が死去されたことである。先生はアマチュア演劇界の支柱であると同時に、演劇部の生みの親であり育ての親でもあった。本校の全国大会出場十一回はいまだに破られていない記録であるが、これも先生なくしてはなしえなかったであろう。東京都大会では、先生の功績を称えた米本一夫記念賞が演出・演技の最優秀校に与えられている。その第一回を本校が受賞できたのも先生のお導きであろうか。

顧問として、部活動としての演劇を部員達と作り上げる際に思うことは、特に高等学校は他の地域社会に比べて、知的にも肉体的にも共通する要素が非常に濃く、最も密接な共同体である。このことは生徒の精神生活に重要な意味を持つ。一貫した教育で結びついた共同体が創る高校演劇が独自の性格を持つのはある意味では当然なのかもしれない。しかし、それは、独りよがり、馴れ合い、安易感という弱点を常に抱えている。この弱点を除くために、部員達がある役を演じる場合には、その人物の持っている希望、責任、嘆き、喜びなどを自分の生きたからに担って行動しなければならぬということを意識させ、人間についての認識を深めるために真剣に役に立ち向かわせることである。言い換えれば、部活動としての演劇は、演劇を日常へ返す作業を通じて、部員達に豊かな表情を身につけさせたいということである。

(元顧問 勝島讓吉/日本大学鶴ヶ丘高等学校五十周年記念誌稿「飛翔」から引用)





演劇部を創部した米本一夫先生は国語科の教諭でした。同じ国語科の教諭であり、その後第十代校長になられた石川泉先生が、米本先生のご逝去にあたり送られた文中から抜粋させていただきます。

先生ご指導のもと、鶴高の演劇部は昭和五十三年に全国大会優勝を果たしました。都大会優勝九回、そして全国大会の出場は十三回を数える実績があります。これらは実に米本先生の演出、ご指導によって達成されたもので、鶴高文化活動をいささか輝かしく大きな誇りでもあります。また、鶴高は昭和五十四年度より三年間、研究開発校に指定されました。これは、芸術教科の中に演劇を導入せんとするところみで、文部大臣の委嘱を受けた大変に名誉なことですが、これとて、米本先生の存在なくしては考えられません。

とりわけ深く、日常的なげない会話からあらたまった公式の発言にいたるまで、正確をもとめてやまぬきびしさがありました。先生ご自身の美しい日本語、正しい言葉遣いは抑揚に富み、よどみなく、ひびきゆたかなものでありました。国語の時間に学ぶ生徒はもとより、私達教員もひとしく、折に触れてしゃべり方や文章表現についてそれとなくご指導をいただいたものであります。

先生は昭和二十七年に鶴高に奉職され、若くして学年主任になられ、その後、生徒会や生徒指導主任、企画や研修委員など要職を歴任され、かたわら、招かれて日本大学文理学部、日本大学芸術学部へ出講されて「演劇論」を担当されました。鶴高の外にあつては、演劇関係の講演会講師、コンクール審査委員・演出・演技指導などを全国的な規模で活躍されました。

親分肌で仲間の面倒見がよく、酔えば歌う「舟唄」は人生の哀愁をたたえ、先生のゆたかな人間性の一面をみる思いがします。

平成四年四月十七日

学校長 石川 泉

(日本大学鶴ヶ丘高等学校五十周年記念誌稿「飛翔」から引用)



米本先生が創部された演劇部、その舞台は現役の生徒達に受け継がれています。鶴ヶ丘の生徒ひとりひとりにスポットがあたりますように。そしてそれぞれの役で社会に貢献している同窓生の活躍はこれからも続きます。



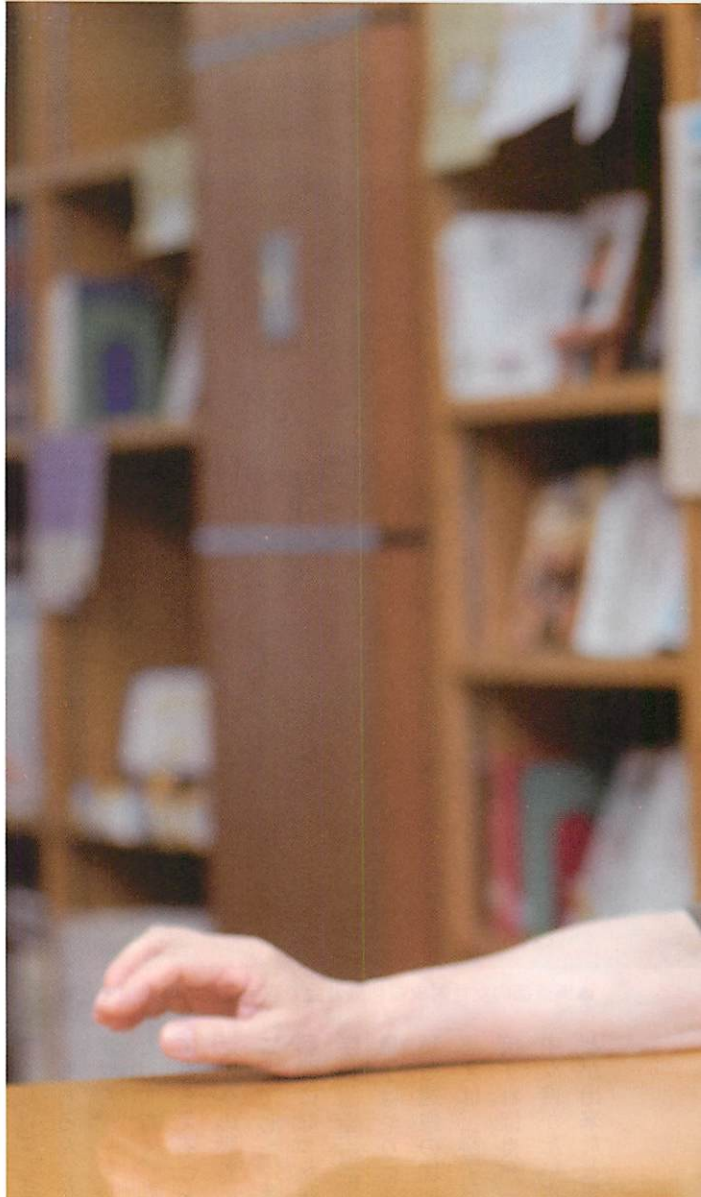
部活動は教員の仕事か？一昨今、教員の多忙さを象徴するものとして語られることの多い部活動ですが、卒業生に会うと「部活はどこだったの？」と必ず質問するくらい、長年にわたり多くの部活動の顧問を経験された中野優子先生。顧問としての関りがきっかけとなり、未経験だった空手道を始められ、現在では審判講習会等にも積極的に参加されるほど活躍されています。「部活動の位置づけには曖昧な部分が多々ある」としながらも、たくさんの生徒たちとの苦楽の経験を振り返っていただき、今回は「学校生活における部活動の重要性」というテーマで、ご寄稿いただきました。

中野 優子先生

◆新潟から日大へそして鶴ヶ丘高校に来るまで

国語の教員になったのは、「文学」が好きだったからです。小さな頃からとにかく「お話」が好きでした。もちろん本も好き。家の中には「世界名作全集」「こどもの古典」などがたくさんあり、日本の文学も外国の文学も身近なものでした。また、祖父や大叔母が文学と深く関わっていたことも大きく影響しているように思います。父や親戚が教員だったことも、早いうちから「将来は先生に……」という思いにつながっていました。ただ、大学進学の時、少しかだけ「体育学科」と「国文学科」の間で迷いました。クロスカントリースキーという競技を続けたくて日本大学に進学を決めたからです。でも、教員になりたい、教員になるなら「国語」でやりたい、という思いから「国文学科」に進学しました。当時私を含めて6人の新入部員のうち、私以外の5人は体育学科でした。部活動でジャージ、授業もジャージ、普段着もジャージという生活でした。また、体育学科は教員も学生も優秀な方が多く、実に刺激的でしたね。

豊山女子高校で教員生活をスタートしたのですが、3年目のある日、



特別寄稿

◆女子校勤務を経て鶴ヶ丘へ

前述のとおり、私は豊山女子で教員生活をスタートし、お隣の別学共学(授業は別、部活動や生徒会は男女一緒)である櫻丘高校(現在は共学)から鶴ヶ丘にきました。部活動が盛んで、しかも教員が熱心に指導しているという印象を持ちました。

昨今は「部活動」というと、教員の多忙さを象徴する問題として語られますが、このことは後に述べることにします。

◆吹奏楽部(バトンパート)顧問

やがてチアリーディングへ

鶴ヶ丘に来て3年目か4年目に、吹奏楽部のバトンパート顧問になりました。活動日の多さ、活動内容のハードさ、部員数の多さなど当時は野球部に負けないほどでしたが、私にとってやりがいのある部活動顧問でした。

私が顧問になったとき、バトン部は「チアリーディング」に傾いていました。バトンは一人、二人でも十分に華やかですが、一人前になるには10年はかかるといわれます。しかし、チアリーディングは正しく練習すれば目に見えて成果が現れる競技です。高校に入ってから初めてバトンに触れる生徒にとって、パレードや発表会でポロポ

校長先生から国語の女子教員が呼ばれ、「兄弟校の櫻丘高校で国語の先生同士が結婚する。女性は豊山女子への転勤を希望している。誰か櫻丘高校にいつてくれませんか?」とお話。どなたも手を挙げなかったので手を挙げました。

豊山女子で3年、櫻丘高校では9年間を過ごし、当時の「強制配転」で鶴ヶ丘高校に転勤してきました。鶴ヶ丘の国語の先生が櫻丘高校への転勤を希望し、いろんな曲折を経て、私に順番が回ってきたのです。

自分から「行きます」と手を挙げたのととは違って、嫌でしたね。「泣く泣く転勤」し、私と交換で櫻ヶ丘に行つた先生は顔を見るのも嫌でした。ところが「直ぐ」です。「鶴ヶ丘にきて良かったあ」となったのは、生徒が面白い。可愛い。最後の「音楽科」「美術科」があった時でした。最初の授業で美術科の教室のドアを開けたとき、「ピー・ハップ・ハイスクール」に

来たかと思いました。昨年の「今日から俺は!!」みたいな子が何人もいたのです。ここには書けない面白い

ことや刺激的なことが毎日のようにありました。色々な意味でもとても勉強になりました。

国語の教員になって以来、「3分間スピーチ」を続けてきました。「話す」「聞く」「書く」の三点に焦点をあてたものです。「天声人語」を使ったときもありました。教科以外では「生徒会」と「文化祭」を重視してきました。後に述べる「部活動」にも通じる「生徒による自治活動」だからです。私自身、試行錯誤しながら生徒と共に学んできたように思います。

口バトンを落とすよりも、チアリーディングの方に惹かれるのも無理のないことかもしれません。講習会に参加したり、指導者を招いたりするうちに、生徒達は大会に出たいという思いを強くするようになりました。

◆大会出場という夢に向かって『KIDDIES』誕生

大会に出るには日本チアリーディング協会の会員になること、1年間は準会員として決められた講習会で技術指導を受けること、最初はオーブン参加という形になることなどを熱意をもって乗り越えていきました。

た。ただしこのように取り組んだ平成7年、8年の部員達は大会に出られないのです。自分たちは出ない大会のために『KIDDIES』というチーム名を考え、シエルトップ形のユニフォーム(Vネック、ノースリーブとスカートの組み合わせ)、チームカラーは白地に赤とグレーとし、可愛くて素敵なユニフォームを作り上げたのです。しかし翌年、私は吹奏楽部(バトン部)の顧問から外れます。理由は分かりません。数年後に再びバトン部の顧問に戻るのですが、何年かしてまた突然離れます。

◆憧れの空手道部顧問に―指導は出来ずとも任された喜び

バトン部の顧問を離れた後は、1年から2年おきくらいに受け持つ部活動が代わりました。そして退職を考えるようになったころ、日下修次先生(現在は(公財)全日本空手道連盟理事・事務局長)から「空手道部の顧問をしてみませんか」と声がかかったのです。まあ、嬉しかったこと。鶴ヶ丘高校に来て初めて空手道部の『形』を見たとき、なんと美しい「舞」のようだと思ったものです。日下先生の紹介で、自宅近くの道場に通ったこともありましたが(半年ほどでくじけてしまいました)。

もちろん、私に空手の指導は出来ません。しかしただ練習を見ているだけでなく、私に出来ることで任せてもらえることがあったことは、部活動への愛着につながり、有り難いことでした。また、私が空手道部の顧問になった年、息子が鶴ヶ丘に入學し、空手道部に入部してきました。息子はやりにくかったでしょうし、私も遠慮の塊になっていました。今思えば、親子なのだから遠慮せず接すれば良かったとも思います。中々得がたい貴重な時間を過ごすことが出来たと思っています。

◆「部活はどこ？」

卒業生と会ったとき、よく知っている生徒は別ですが、私の場合先ず聞くのは「部活はどこだったの？」ということ。そこから具体的なことが思い出されてきます。もちろん、文化部、運動部問わず、生徒会の活動も含めて、高校時代にどの活動に所属し、どのような活動をしてきたかというところは、その後の生き方や人間性に大きく関わってくると思うのです。だから、4月のオリエンテーションや部活動説明会ときは、積極的に新入生に声をかけていました。どこに所属するか、しなかったかで高校生活自体が大きく変わる場合もあります。断言は出来ないのですが、部活動に入っていれば学校を辞めなかったかも、という生徒が何人かいます。

◆学校生活と部活動―非現実的な定めと曖昧な位置づけ

教員の多忙さを象徴するものとして語られることの多い部活動ですが、それだけ学校生活におけるさまざまな取り組みの中でも、重要かつ必要欠くべからざるものであることを表しているのではないのでしょうか。確かに部活動の位置づけには曖昧な



▲東京都の女性対象審判講習会で空手道部の卒業生とともに

部分が多々あります。「課外活動」として位置づけられているにも関わらず、学習指導要領では「教育の一環」と書かれていたり、また公立の場合「時間外労働は命じない」「時間外労働の手当は支払わない」ことが法律で定められています。まったく現実的ではありません。また、「部活動は教員の仕事か?」「校長は教員に顧問を命令できるか」など取りざたされています。

大事なことは「部活動」が学校においてとても重要であるということですね。文化部・運動部を問わず、生徒の成長に大きく関わり、若く柔軟な精神と肉体を鍛えるものです。

文部科学省の中央教育審議会でも審議されていますが、現場の声が正確に届くことを願うばかりです。



◆若者組―集団の中で仲間との関わりを通して育つもの

「課外活動」として発足したものが、日本の学校文化の中で定着し、重要な役割を担うようになったのはなぜか。私は土台に「若者組」があると考えています。

明治5年頃、アメリカ人教師によって野球が紹介されると、あっという間に「課外活動」としての「運動競技」が広まりました。明治10年代にはもう「運動会」が開催されています。明治20年代には、各部が乱立するようになったため、これを統一するための組織が必要となり、さらに運営を統一するために社団法人化されるまでになります。

日本においてこのように急激に「部活動」が広まっていったのは、「若者組」に代わるものとしての役割を担っているからではないでしょうか。「若者組」(若衆組とも)は、起源を鎌倉時代に求められるとも、さらに古くさかのぼるともいわれ、地域社会の構成員を教育する場として確立したと考えられています。

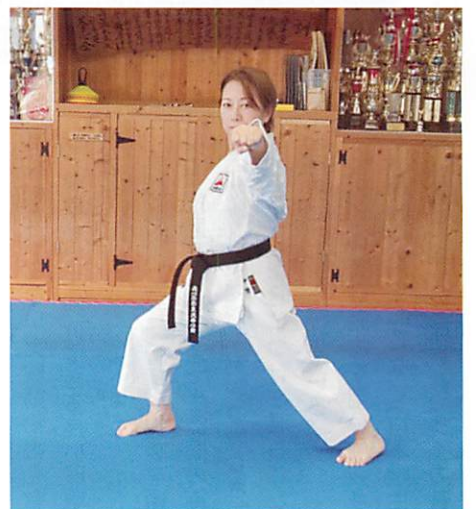
◆同世代の中で年長の者が年少の者を指導すること

一定の年齢(現在の中学生から大学生くらい)に達した青年を集め、

地域の規律や生活上のルールを伝える土俗的な教育組織といえます。年長者がリーダーとなり、後輩を指導します。若者組の一員として守るべき条項があり、厳しく律せられました。また、新加入に当たっては、種々の試験が課せられ、心身ともに一人前になるよう各種の訓練が行われました。規律を破ったり、秩序を乱したりした者には制裁が加えられました。

明治になり、組織化された青少年教育の必要性と、西洋の思想教育を受けた教育者から倫理的批判を受け「夜這い」も管理していたからでしょうか?、「若者組」は衰退していきます。ただ、地方においては、明治以降も多く引き継がれ「青年団」「消防団」という形で地域社会に貢献しています。

日本の学校現場で「部活動」が重要な位置を占めているのは、この「若者組」の役割、すなわち同世代の中で年長の者が年少の者を指導すること、各種の訓練を通して心身を養い鍛える、社会の一員としての教育を受けるなどということがあるからではないでしょうか。



▲空手道の形「ハッサイダイ」の稽古中

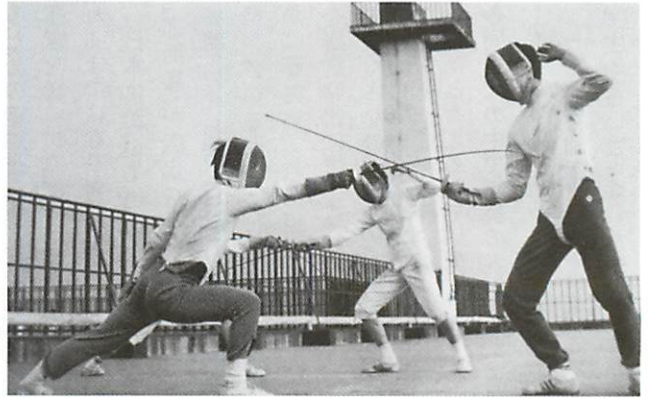
◆部活動顧問は教員の可能性をも広げるチャンス

そして、教員にとっても、タイミングと適正などいくつかのことが合えば、部活動の顧問をしたことにより、広がる世界もあります。全くの素人から、その競技の役員として活躍する場合もあります。

私の場合は、空手道部の顧問をしたことがきっかけとなり、退職後、「拳心会」という光が丘公園の近くにある道場に通うようになりました。以前に日下先生から紹介されたところです。なかなか上達しないのですが、審査を受けたり大会に出たりして楽しんで取り組んでいます。

Historia 鶴ヶ丘

文武両道の鶴ヶ丘、現役の生徒達は関東大会や全国大会をはじめ多くの大会出場で優秀な成績に輝いています。現在、体育系で19部、文化系で13部が活発な活動をおこなっています。昭和時代、今はなき数多くの部がありました。当時を振り返ります。



自動車部、射撃部、部の名前を聞いても興味が湧くクラブ。武道系だけでなく空手道部、柔道部、剣道部、合気道部、少林寺剣道部、弓道部、とても多彩な時代でした。また、活動の場は校内だけではなくありません。帰宅部の皆さんは学校を越えて活躍している生徒も多数いました。

ここでは母校が五十周年時に発行された日本大学鶴ヶ丘高等学校五十周年記念誌稿「飛翔」から、昭和50年代後半から平成10年までの間の活躍

をいくつかを紹介します。なお、掲載内容は同誌に掲載された時点のものであり、連続出場などはその後も続いていることがありますので、あらかじめご了承ください。

昭和56年(1981年) バドミントン部11年連続全国大会出場

昭和40年創部、昭和44年の東京都高校総合大会で初の優勝杯を手にしたのち、昭和46年の香川大会で優勝。それから11年連続の全国大会出場を

果たしました。

昭和62年(1987年) アメリカンフットボール部全国制覇
平成2年(1990年) 野球部甲子園初出場ベスト8

平成5年(1993年) 空手道部10年連続インターハイ出場

平成12年(2000年) アメリカンフットボール部全国大会ベスト4

昭和63年(1988年) 生物部

顧問池田春男先生(のちに日本大学藤沢高等学校校長)の部活動報告



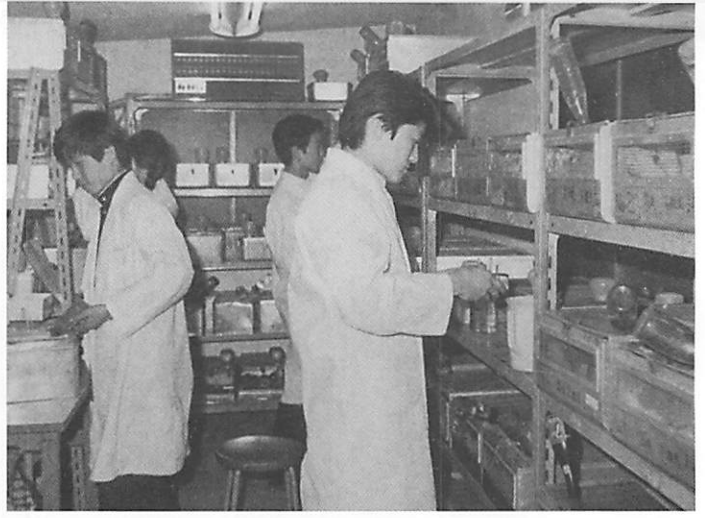
を引用します。

本校に奉職以来三十数年生物部の指導を担当してきた。本校は普通高校に見られない実験動物舎を有し、実験動物を飼育できる良い環境にある。

実験動物の飼育、管理や実験を通じて「規則正しい生活」「生徒間の協力」「動物への愛情」「実験の厳しさ」などを生徒に身につけさせることを目標に活動を続けている。

これらの実験動物を用いて数多くの実験研究をおこない「日本学生科学賞」に論文を発表し、多くの賞





なっている大学も出てきている。

このようなことから将来を獣医、医学、薬学系など自然科学に進む生徒へは生物部で生物の基礎的知識を身につけてほしいと考えている。

(編集注：生物部は昭和63年時点で「日本学生科学賞」を連続20回受賞しています。)

昨年6月15日にご逝去された斎藤辰夫先生が顧問であった柔道部。さたつ先生の部活動紹介を引用します。

昭和二十九年(一九五四)年日大鶴ヶ丘高校に柔道部が発足した。

初代顧問には井上研雄が就任され、その後、六年間担当された。

昭和三十七年(一九六二)年、顧問は君島公也先生に代わり、続いて昭和三十七年より、私が就任し現在に至っている。

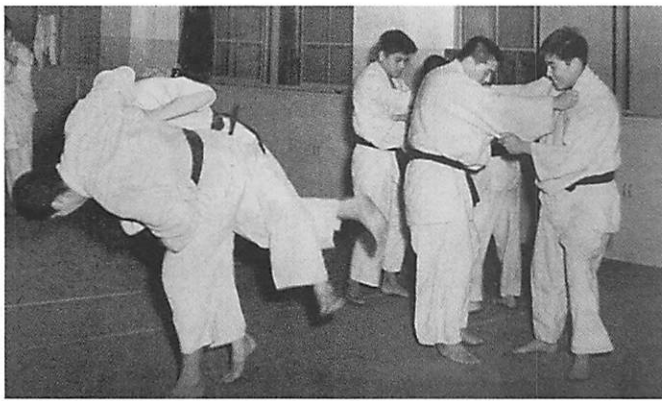
二十九年前、体育教師として来校時、本校は、道場はもちろん、体育館も運動場もない学校だった。

これはたいへんな学校に勤めることになったもんだなというのが実感であった。教室は二階建ての木造校舎で、廊下は穴だらけ、二回での授

業には、雨の日は傘をさして行ったこともあった。

体育の授業では、場所がないものだから、教室でルールの説明をするなどの連続であった。

柔道場は、今の演劇部の下の教室で、先ず机と椅子を廊下に出し、そこへ四十枚の畳を運んで創る。稽古が終われば、また今度は畳を外に出して、机と椅子を運び込むというのが、柔道部員の仕事であった。(省略) 二十周年記念館は一階がプール、二階が柔剣道場という、すばらしい



ものであった。日当たりがよく、風通しも結構な百七十畳の道場に感激して、当時、剣道部の顧問であった河野先生といっしょに家に帰らず一週間の間、記念館で寝泊まりしたことが、今も懐かしく思い出される。(省略)

今日まで、顧問として三十数年間、毎日、生徒たちを指導してきたお陰で、自分も上達することができのだと思うと、感謝の気持ちでいっぱいである。

同窓生の皆様はまだ伝えたい歴史が多いのですが、また誌面を改めてお届けしたいと思います。昭和から平成、そして、令和の時代にも鶴ヶ丘の部活に対する生徒達、先生方の熱い思いは時代を超えて伝わっていること感じます。

..... 参考文献・引用

参考文献・引用
平成13年10月10日発行
日本大学鶴ヶ丘高等学校五十周年記念誌稿
「飛翔」編集委員会
五十周年記念誌稿「飛翔」



活躍する同窓生「豊田チカさん」

▲2013年、主人が制作してくれたCD「Dream～巨泉withチカ」のジャケット撮影のあとの家族写真

1961年東京生まれ。幼少よりジャズを聴いて育つ。日大鶴ヶ丘高校在学中の18才からギター、ピアノの弾き語りでクラブで歌い始め、1984年ジャズシーンにデビュー。来日中のトニーベネットに歌唱力を絶賛され1stCD「So in love」を発表。日本ジャズボーカル賞新人賞を受賞。「題名のない音楽会」「オールジャパンジャズエイド」はじめ、テレビやコンサートで活躍。1994年渡米。アポロ劇場、ニューポート、モントレージャズフェスティバル等に出演。帰国後、子育て休業を経て復帰。チカチャリティ「世界の子供たちへ」「福島の子供たちへ」主催。

2013年CD「Dream～巨泉withチカ」、自作のシングルCD「両手を広げて～Joy of your birth」をリリース。日本ジャズヴォーカル賞大賞受賞。2017年11月、母マーサ三宅の引退の意を受け、三人の息子達と共にマーサをサポートしアルバム「Mama～大好きなあなたへ」を発表。

2019年 音楽生活40周年記念全国ライブツアー展開中。

2020年春、17年ぶりにNYのジャズシーンに復帰(3/27、クラブ「Kitano」に出演)し、レジェンド Rone Carter氏を迎えてのレコーディングも決定。イラストレーターとしての顔も持つ。

ジャズボーカリストとして40年。1980年卒業の豊田チカさん
母校でキャリアガイダンスの講師を担っていますので、現役の生徒や最近卒業した同窓生もご存じの方が多いと思います。2020年初春にはニューヨークで17年ぶりにライブを開催します。豊田チカさんの鶴ヶ丘時代は、今の母校とはかなり異なる校風であったようです。今では大問題になってしまいうことも、その時代ではまた違ったものなのでしょう。そこで起きていることよりも、友人との絆や当時の先生方の想いを感じていただければと思います。それから現在に至るまで、音楽が好きで音楽を追い求めてきた豊田チカさんに語っていただきました。

— 鶴高時代の思い出

まず、1年K組での1年間は最高に楽しかったです！ 今でも全員の名前が言えます。

次に印象深いのは文化祭で軽音楽同好会のみんなとのパフォーマンス。部活動自体は、ほぼ毎回「大声でみんなでフォークソングを歌う」という伝統継承だけでしたが、人間関係で多くを学びました。2学年上の先輩方は楽器もうまくて優しく、かつこよかったです。それを見習って自分も後輩の面倒を見たり。2学年下の後輩と数年前再会した時、当時わたしがギターを弾いて歌っていた自作の「表参道」という曲を覚えて



▲長男フランキーとライブでデュエット

いてくれたのは感激でした！よくライブに来てくれる後輩達を拙宅に招いて食事をしていた時ですが、40年前にも数回歌っただけなのにその後輩は鮮明に覚えていてくれて「あの歌は僕の青春だったんですよ」と言ってくれて…。その後盛り上がりつつ押入れからギターを引っ張りだして来て、その「表参道」や当時みんなで大声で歌ったかぐや姫の「面影色の空」をいっしょに歌い、40年の時を超えてこんな事があるんだなあと思無量でした。

それと…もう時効だから言いますが放課後雀荘でよく麻雀やってた事かな。もちろん校則違反ですが、そういう時代だったんですね。インターネットがある訳でもスマホがある訳でもなく、部活の無い日は帰りに何やって遊ぼうかってことになるでしょ。で、私は子供の頃から家庭麻雀やっていたので誘われると「いよいよ！」ってよく行きました。女子はもちろん私一人です。大勢の学ランのリーゼントに混じって打つ訳ですから目立ちますよね。で、ある時（たまたま私は家の用事でその日はその場にいなかったんですが）補導員が何かに全員捕まったんです。彼らはそれなりの処分を受けたのです



▲母マーサ三宅引退記念アルバム「Mama 大好きなあなたへ」の発売記念ライブで歌う豊田チカ

その時の麻雀仲間からの質問「大橋さん（私の旧姓）で、別に全然ツツパリ（今で言うヤンキーとか不良）じゃなかったのに、なんでいつも雀荘にいたの？」爆笑

答「麻雀好きだったのよ？」

麻雀だけで基本もうアウトでしょうけど（笑）優等生ではなかったです。中学までは国語、数学などの勉強もある程度楽しかったし成績も悪くなかったのですが、高校に入ってから（特に二年生以降）は、自分の中で「やりたい事」が更に明確になって来てしまったので、興味のない授業中は作曲したりイラストを描いたりしていました。（ごめんなさい！その時のまんま、音楽家&イラストレーターになりました。）でも、成績が悪ければ大学に行けないのは自分だし、他の生徒の邪魔さえしなければ自由にやらせてくれました。大橋は作曲してるからその後の「岡島！」なんて言っただけで飛ばしてくれました。大学に行くつもりは最初からなかった例え英語でも歌詞を訳すために必要な事や会話はよく勉強しましたが、いわゆる生活にあまり関係ない「文法」などは全くやる気がなかったんです。理系科目も生活に

関係ありそうな事はちゃんと聞くんですが、ルートだとかサインコサインとかそういうのは最初から頭に入って来ませんでした。社会でも歴史の話は面白くて聞くんですが年号を覚えるとかは完全にアウトでしたし、小さい時から白地図塗るのとかも全然やってこなかったので、ハタチ過ぎるまで日本は北海道と沖縄以外全部くっついていてると思っていまして。四国や九州って地続きじゃないと知った時は驚きましたよ!! ははは…もしかしたら、関心のある事以外は脳の入り口でシャットアウトして入ってこないようにする性格だったのかも知れません。

●部活は？

最初、中学からやっていた部活(バレーボール部とギター部)の両立がしたくて、バレー部と軽音楽同好会に入部したのですが、当時の体育会系のいわゆる全体主義的な空気が嫌でバレー部は半年で辞めました。先輩が修学旅行でタバコ吸って停学になったから部員全員毎朝6時に来て校門の掃除しろってなんやねんで感じます。父譲りでそういうの一番苦手。バレーボールは続けたかったんですけどね。余談ですが、そんな理由でバレーボールをやめたので、



▲1963年頃の父と私

ずっと心の中にバレーボールへの思慕が残っていて、30代前半の頃カリブ海のジャズクルーズ「世界最大の客船ノルウェー」で歌っていた時、甲板のコートでバレーやっていた若い人たちを見てもう居ても立っても居られなくなり、「Let me join please」て飛び込んでいって一緒にやっちゃったんです。もう両腕レシーブで紫色になっちゃって大変でした。

―想い出に残っている先生は？

一年の時担任をして下さった鎌田正治先生です。2年の時の並木先生も3年の時の浅岡先生も良い先生方で感謝していますが、鎌田先生は鶴

高に入学したばかりの私たちの高校生活に明るい希望の光を与えて下さった方で、特別でした。鎌田先生は英語が堪能でいらしただけでなく、欧米の自由で合理的でフレンドリーな人間関係を取り入れ、クラスを指導して下さいました。前髪をちよこつとカールしただけで生活指導部に呼び出され、こっぴどく叱られた時代、「似合えばいいじゃないか。なあ？」と言って下さる先生でした。マイペースで普段は飄々とした先生でしたが、悪事の疑いをかけられたクラスの生徒を「そんな事をする奴じゃない」と守って戦って下さった事もありました。二年生になる時みんなクラス替えが悲しくて、クラスを替えないよう有志で直訴にいったほどでした。翌年から鎌田先生は英語科の主任になられたので担任を持ってなくなり、我々の願いは届きませんでした。また英国からネイティブの先生を学校に呼ばれ、生きた英会話を学べる環境を作って下さいました。私は三年生の時に「第一回オール日大スピーチコンテスト」で総合優勝したのですが、鎌田先生のグローバルな指導のお蔭と感謝しています。



▲鶴高キャリアガイダンスの授業風景▲





▲飛び入りでステージに上がった長男(当時11歳くらい)とデュエット

— Jazzを始めたきっかけは？

私は物心ついた時から両親が音楽や芸能の世界にいたので、自然とそういう環境で育ちました。ジャズに関しても子供の玩具と一緒にです。小さい頃から家で流れていたジャズを聴き、ピアノを弾いて歌っていたのですから、仕事として研究するようになったのはむしろ遅いかも知れません。小学生の頃は皆さんと同じく歌謡曲も聴き、中学時代はギター弾いてフォークソングやオリジナル曲を作った歌い、高校からは当時流行っていたハードロック(One of purpleなど)のキーボードをやったりしていました。18歳の時に知り合

いのギタリストが里帰りする間、代わりに一週間くらいやってくれないかと頼まれて大学生が集まるパブのような店で歌うようになったんです。今にして思えば怖いもの知らずもいいところですよ(笑)お客さんも歌えるような歌声喫茶に毛が生えたような店で、よくお客さんの伴奏もしました。楽しかったですね。私は子供の頃立派な音痴だったので、とにかく歌ってさえいれば幸せ。ジャンルは何でも良いんです。だからジャズから演歌、シャンソン、フォーク、ロック、なんでも歌いました。音痴なのに弾き語りの仕事で時給800円もらえたって、良い時代でした。カラオケなんて無かったからお客さんの伴奏出来るのが重宝がられ、あちこちに引き抜かれてどんどん仕事が増えていったんです。音痴だったという信じてもらえないんですが、本当なんです。小さい頃私が歌っていると家族がみんな部屋から出て行くのでなんでだろうなあと、思っ、当時売り出していたカセットテープレコーダーを誕生日に買ってもらって自分の歌声を録音してみたら、その理由がわかったんです。これはひどいなあって。でも、そんな事くらいで歌うのをやめたくな



▲父と息子達と 2008年頃

かったんです。でも音痴だから迷惑でしょ？声大きかったし。だから、音痴を直そうと必死にがんばりました！
で、音痴が直って歌の仕事を始めようになつたら、目の前にまたもうひとつ越えなければならぬ山があったんですね。マーサ三宅という日本ジャズヴォーカル界の草分けであり絶対不動の歌手を母親に持ち、同じことをやるといっはリスキーでした。私は前述の通り歌ってさえいれば幸せなのですが、仕事となると周りの声を無視する事は出来ません。顔も声も体型もそっくりなので、から、「マーサさんにそっくりね」

「真似しても勝てるわけないわよ」などなど、何をやってもそのように言われる始末。たとえ相手が歌手として尊敬する母親であったとしても、表現者として誰かに似ている(まして真似している)などと言われるのは心外でしたから、30代から40代前半くらいまでは、どうしたら似ると言われないか！がテーマでした(笑)。マーサさんがやっていない事をやれば似ていると言われないかと思いついてみましたが、私のような音痴の叩き上げと違い、幼い頃から天才の名を欲しいままにし音楽学校でクラシックの教育も受けて、プロとしてのキャリアも長いマーサさんが歌の中でやっていない事なんてないんですね。でもある時、やっと見つけたんです。彼女はあらかじめ作ってやるスキヤットはしていませんが、器楽的な唱法「アドリブスキヤット」はやっていなかったんです。そこで私はピーバップ、モダンジャズなどのレコードを聴きまくってフレーズをコピーして練習したり、コード進行の勉強をして、アドリブにのめり込んで行つたんです。きっかけは「お母さんにそっくりな歌」と言われる事への反発でしたが、ジャズは知れば知るほど奥が深く、



▲当時六本木にあったライブハウスSTB139で、父とコンサート▲



なかなか有意義で楽しい10年あまりでした。そして50歳を過ぎた頃、「お母さんに似てますね」という言葉を微笑んで聴ける私がい었습니다。

—チカさんにとってジャズとは？

「ジャズに名曲なし、名演あるのみ」とその昔父が言ったそうですが、どの曲を歌うかではなく、何をやってジャズになるのがジャズミュージシャンなんです。そしてジャズは「人生」ですから、生きたようにしか歌えない。私のミュージシャンとしての人生、母親としての人生が乗っかってくる。それが私の歌の世界です。ただ、忘れてはいけないのは、ジャズの誕生です。あくまでも黒人



▲CD「Dream～巨泉 with チカ」ジャケット撮影現場

霊歌(ブルース)と教会で歌われたゴスペルが発祥ですから、我々日本人の血の中から生まれて来たものではないかもしれません。それに對してpatronizing になってはいけません。常に謙虚さと敬意を持って向き合っています。それと、ジャズは常にその時代その時代、前を向いて成熟して来た音楽ですから「懐メロ」になつては意味がありません。常にリアルタイムな音楽表現が要求されるのですが、気をつけなくてはならないのは、どんなインプロヴィゼーションをしたとしても、その曲に「手垢をつけてはいけない」という事だと思っています。

—デビュー40年を振り返って

あつという間でした。アルバムをめぐると、膨大な数のステージ写真があるので、長い間歌って来たんだなあと思えますが、大雑把に言うとな最初の10年は首痴との戦いから始まって何でも歌って伴奏してというのがむしろな時代、次の10年はジャズ一色に染まった時代、35歳で渡米して本場NYジャズシーンの空気を吸いながら三人の息子を産み育て(前夫の連れ子も含めると子供六人の面倒を見ていた時期も)、離婚してシングルマザーとしての6年間を

経て幼馴染の豊田と再婚、そして豊田の急死、父の癌闘病と死。激動の40年でしたが、ずっと歌って来たんですよ。…そう言えば。

—Jazz Vocalist ユーナー 一番うれしかった事は？

父の「80歳までにもう一度レコーディングしたい」という願いを(豊田が制作協力してくれて)叶え、「Dream? 巨泉 with チカ」をリリースした事、それと母の引退記念のアルバム「Mama 大好きなあなたへ」(母の大ファンだった豊田への想いも込めて)制作出来た事ですね。両親は離婚してそれぞれ伴侶がいましたし、2人とも何でも持っているの、何をしてあげたら良いのかわからなかったのですが、一緒に歌う事で初めて親孝行が出来たような気になれました。「Mama…」は、三人の息子たちもコーラスで参加してくれたんです。究極の素人ですが(笑)

—これからのどのような活動をした
い？

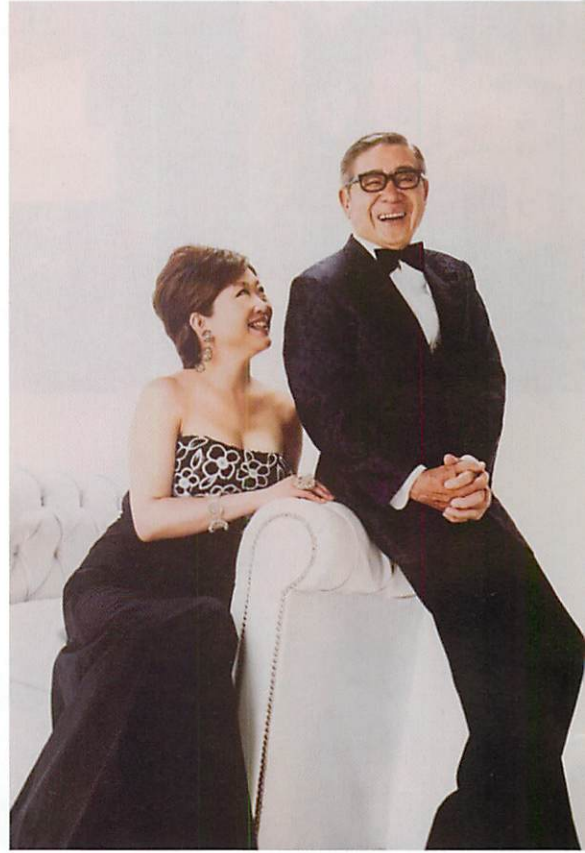
今年40周年ツアーが終わったから来年3月、17年ぶりにNYで歌います。クラブ「Kitano」の出演とニューアルバム制作で。アルバムではジャズベースのレジデント Ron Carter

氏と共演します。三男がお腹にいる時、NYのキャリアを全てやめて日本に帰って来ました。2001年の同時多発テロの時も長男次男を連れてNYにいてとても怖い想いをしたので(しかも長男次男のアレルギーも深刻で)日本に帰って産み、落ち着いて子育てしなかったんです。アポロ劇場のチャリティコンサートに2年続けて出演し、3年目も出演が決まっていたのですが、そんな中4歳で妊娠がわかり、出演を辞退して帰国しました。プロモーターからは

「世界中のアーティストでアポロ劇場の出演を断るのはあなたただけでしょうね。」と揶揄されました。実はその時日本でもニューヨークで歌う私を取り上げたドキュメンタリー番組の話が決まっていたのです

が、必然的にそれも無くなりました。(妊娠中は男でも女でも歌手でもない「母親」という生き物になるんですね。なので、その時は元気な子を産むことしか頭になかったんだと思います。)

あの時NYのキャリアをやめたことは露ほども後悔していませんが、息子たちが大きくなったら三人を連れてNYに戻ってもう一度歌えたら良いなと思って来ました。お陰様で



▲CD「Dream～巨泉withチカ」ジャケット撮影現場

バイリンガルに育った息子たちを通じて、日本からジャズファンツアーを組むことになりました。一緒に行きませんか？

—音楽家を志す後輩たちへ一言—

音楽を演奏する事は、他の職業と違う点があります。それは、仕事にしなくても一人でやっても楽しいという事です。同じ芸能の世界でも役者さんとかは「一人で演技して楽しい」という事はあまりないでしょうし、落語家さんも1人の部屋で小唄をやって自分で楽しむ事はまずないでしょう。聞く人あり観る人あつての事です。ただ、音楽は一人でピアノを弾いても歌っても楽しい時を過ごすことが出来ます。それ

は職業としてだけではなく趣味としても素晴らしいという事です。だからこそ考えてみて頂きたいのです。「歌う事が好き、歌う事が人生の支えになっている」と、「プロの歌手になる」という事は必ずしもイコールでは結ばれない事を。

よく鶴高のキャリア教育でお話するので、音楽を愛する人には3つの選択があります。

一つは自分の歌(楽器でも作曲でも)が世間に認められ、ヒットしてスターになることを目指し、芽がでるまでたとえ何十年でも生活の糧はアルバイトしてでも頑張る!

もう一つは、音響照明の学校で勉強して裏方としてステージを支えた

り、ゲームの音楽を作ったりして「音楽ビジネス」に関わる。

それでもう一つは、別の職業に就いて、音楽は趣味として大切にします。

どれが正解でどれが不正解かではなく、自分はどれを選択するのが一番幸せかをよく考えてみる事が大切だと思います。自分らしい選択が出来れば、音楽はみなさんの人生をより豊かなものにしてくれる筈です。

—チカさんにとって鶴ヶ丘高校とは？

学生時代の友人はかけがえない宝です。親しくした友人はもちろんですが、たとえ個人的な付き合いがなかったとしても同じ時代に同じ校舎で学び、同じ景色を眺めた同窓生とは、見えない糸で繋がっているような気がします。私の時代も鶴ヶ丘高校は大きな学校で人数(特に男子)がとても多かったのが、口をきいた事がない人の方が多かったです。卒業して何十年経っても同窓生と会うと懐かしい話に花が咲き、温かい気持ちになれます。そんな同窓生たちの縁(えに)しを繋ぐ、先生方や同窓会の役員さん達のご尽力は素晴らしいと思います。故郷のない江戸っ子の私にとって、鶴高は心の故郷です!



昭和28年に【池袋】で創業（現・池袋みやらび）4年後の昭和32年に「琉球舞踊と料理の亭」として多くの方に琉球舞踊・沖縄の料理・文化にふれられる琉球料理の料亭を現在の地【九段】で創業。
2000年に料亭から気軽に沖縄宮廷料理が楽しめる現在のスタイルのお店に改装。
1977年鶴ヶ丘高等学校卒業の川田裕美子さんが、開業当時のお祖父様・お祖母様の味を現在三代目の女将として守られています。
お店に置いてある甕は開業当時から62年間継ぎ足されてきた芳醇な香りの泡盛です。



- ・最寄り駅: JR中央線・都営新宿線・東京メトロ有楽町線・南北線 / 市ヶ谷駅
- ・住所: 東京都千代田区九段南3-4-3 電話: 03(3261)3453
- ・営業時間: 11:30~14:30 (LO.14:00)・17:30~23:00 (LO.22:00)
- ・29席 (カウンター席9席、座敷20席)
- ・個室1室あり (5~8名)
- ・定休日: 毎週土曜日・日曜日・祝日・夏季・年末年始
- ・HP: <http://www.miyarabi-kudan.com>
- ・1977年卒業 旧姓: 田辺

●お店訪問

みやらび



創業昭和32年 自慢の沖縄宮廷料理
沖縄伝統料理と創作料理のコラボレーション



琉球料理「みやらび」では、自慢の【沖縄宮廷料理】を中心に、【家庭料理】はもちろん【オリジナル料理】を季節ごとに取り入れる等、メニューに工夫を凝らされています。沖縄の伝統と文化を守り創作する、新しい琉球料理をぜひ!! 鶴ヶ丘高等学校の卒業生には初来店時<オリオン生ビール>を一杯サービスしていただけます!!



We will make Your Dream Come True

鶴高の今を知る。



未来につなぐ

この令和元年に、日本大学鶴ヶ丘高校は創設69年目を迎えます。平生より、本校へ多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。さらに、日本大学は130周年を迎え、本校1,272名の生徒たちが、この伝統を引き継ぎ、一層発展させるべく邁進しております。本校ホームページでは、その活躍の様子がよくわかっていただきたいと思いますので、是非ご覧ください。

本校の二十・四十・五十周年史をよく読ませていただきますと、それぞれの時代の流れの中で、本校の教育の在り方について真剣に悩み、考えてくださった諸先輩の教職員のご苦勞が大変よくわかります。また、目の前にいた生徒たちと、それぞれの先の時代も想像し、挑戦をされ、道を拓いて来られた強い思いも感じられます。

しかし、今の時代において、次の10年後の社会や教育、さらには世界がどんな場所になっているかは、想像もつかないのが現実です。ただ、戦後すぐ復興の中で誕生した一私学として、なされてきた血のにじむ努力を思えば、できないことはないとも覚悟をする次第です。

今後の教育現場では、「知識を授ける」よりも生徒たちの手を取り、一緒に「探求者」として学び、考えていく姿勢を持つことが、次の予測不可能な時代を生きていく大事なことだと考えています。

すべての人々が「よりよく生きる」ために、それが具現化できる学校として、さらに『鶴ヶ丘の未来』につなげられるように、しっかりと取り組んでまいります。今後とも応援よろしくお願いたします。

Message



第15代校長
川原 容子

●プロフィール
日本女子大学附属 小学校・
中学校・高等学校 卒業
日本大学理工学部数学科 卒業
卒業後 日本大学鶴ヶ丘高等
学校に奉職し現在に至る

大学現役進学率

2018年度卒業生

95.7%

(401名 / 419名)

普通・特進両コースとも現役での大学進学を強く意識しています。普通コースは日本大学を目指す生徒が大半を占めますが、近年は総合型選抜(AO入試)、学校推薦型選抜(推薦入試)、一般選抜(一般入試)などで、国公立・早慶などの難関大学を目指す生徒も増えています。特進コースは、第一志望にこだわりを持って一般選抜に臨んでいます。

普通コース:日本大学各学部進学者数
(2018年度実績)

学部名	人数
法学部	41
文理学部	69
経済学部	54
商学部	13
芸術学部	16
国際関係学部	2
危機管理学部	4
スポーツ科学部	1
理工学部	43
生物資源科学部	36
薬学部	8
短期大学部	0
専門学校	0
合計	287

特進コース:主要他大学合格状況
(過去3年間実績)

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
国公立大学		首都大学東京	2	成城大学	13
東北大学	2	横浜市立大学	1	明治学院大学	5
九州大学	1	福井県立大学	1	國學院大學	7
東京工業大学	2	私立大学		武蔵大学	3
東京農工大学	1	早稲田大学	10	東洋大学	18
千葉大学	2	慶應義塾大学	2	専修大学	6
筑波大学	1	上智大学	10	芝浦工業大学	8
電気通信大学	1	東京理科大学	9	工学院大学	3
東京海洋大学	1	国際基督教大学	1	日本女子大学	6
東京学芸大学	1	明治大学	24	東京女子大学	12
群馬大学	1	青山学院大学	8	津田塾大学	5
静岡大学	1	立教大学	16	Hamilton College	1
信州大学	1	中央大学	18	The University of Melbourne	1
新潟大学	1	法政大学	18		
徳島大学	1	学習院大学	7		
宮崎大学	2	成蹊大学	12		

普通コース

日本大学の第1希望の学部・学科への進学を目指します。

●3年間の学習の流れ

1年次	中学校で学習した内容を復習し、あらゆる進路を考えた基礎力の養成に重点を置きます。
2年次	希望により文・理系のクラスに分かれ、それぞれに選択授業が設けられます。
3年次	日本大学の希望の学部・学科合格に向け万全の態勢をとります。

特進コース

少人数クラス編成で基礎学力の定着を図り、ハイレベルな授業で国公立大・難関私大への合格を目指します。

●3年間の学習の流れ

1年次	予習・復習の習慣や学習スタイルの確立を図ります。
2年次	基礎力に発展的な内容を上乘せし、主要5教科をバランスよく学習します。
3年次	実践力をつけるだけでなく、読解力・思考力・記述力を一層高めます

母校の入試について

入試学校説明会は終了しましたが、一般入学試験の志願者情報登録期間は令和2年1月20日(月)から始まります。詳しくはお早めに学校までお問合せください。

※ご連絡時は「同窓生」であることをぜひお伝えください。

■ここに紹介した内容の詳細は下記をご覧ください。

日本大学鶴ヶ丘高等学校ホームページ
www.tsurugaoka.hs.nihon-u.ac.jp

日本大学鶴ヶ丘高等学校

Tel.03-3322-7521

同窓会からのお知らせ

維持会費納付のお願い

同窓会は卒業生からの維持会費により運営されています。ぜひ、ご理解をいただきご支援くださいますよう
よろしくお願ひ申し上げます。(平成27年～31年卒業の方は卒業時に5年分をお預かりしているため不要です。)

維持会費(年額): 3,000円

維持会費は年度ごとにお願ひしています。あくまでも会員皆さまのご厚意をいただくものです。

納入されていなくても、過去に遡って請求されることなどはありませんので、誤解のないようにお願ひ申し上げます。

※ 総会懇親会の会費とは異なりますので、ご注意ください。

同窓会寄付のお願い

同窓会創設50周年寄付では、同窓生皆さまのご厚情により多く
のご支援を頂きました。2018年度の総会での承認を得て、
2019年3月、母校に500万円の寄付をおこなうことができました。
厚く御礼申し上げます。

同窓会では母校の発展のために引き続き、皆さまからの暖かいご
支援をお願ひしています。ぜひ、ご協力をお願ひ申し上げます。

寄付(1口): 2,000円

維持会費・寄付のお申し込み方法

●郵便局から

口座名義: 日本大学鶴ヶ丘高等学校同窓会
口座番号: 00150-4-613083

●銀行から

銀行・支店名: ゆうちょ銀行 〇一九店(ゼロイチキョウ店)
口座名義: 日本大学鶴ヶ丘高等学校同窓会
口座番号: 当座 0613083

ご意見・思い出の品募集



在学時代の制服、スクールバック、クラブバッジなど学
生時代の思い出の品をお持ちでしたら、同窓会までご連
絡ください。同窓会では皆さまから思い出の品をお預か
りして、鶴ヶ丘祭などでご紹介しています。懐かしい青
春時代の再現にぜひ、ご協力をお願ひ申し上げます。

皆さまからの幅広いご意見をお待ちしています。
ご意見、思い出の品に関する情報は巻頭の連絡先までお
問い合わせください。

※ 個人情報の取り扱いに関しまして

個人情報はプライバシーポリシーを設け、会長が委員長となる会員情報保護管理委員会で適切な運用をしています。
プライバシーポリシーの全文は下記のWebページをご参照ください。

<http://www.ntdosokai.org/html/pp.html>

メッセージを伝えよう

同窓会の目的のひとつは「会員相互の親睦向上」です。それを実現するために、同窓生皆さまの情報交換に力をいれていきたいと考えています。

情報提供・発信の方法

定期的な情報提供

- ・会報誌

リアルタイムな情報提供

- ホームページ
- ・公式ホームページ
- ・公式 facebook ページ
- ・facebook ページ IZUMI

リクエストによる情報発信

- ・会報誌と同時に発送する情報
- ・同窓生への代行発送
- ・退職した先生への代行発送

情報提供・発信の内容(例)

- ・同期会(同じ卒業年の同窓生)の開催
- ・クラス会(同じクラスの同窓生)の開催
- ・同窓会(すべての同窓生)総会懇親会の開催
- ・クラブOB/OG会の開催
- ・同窓生の会社やお店の紹介
- ・同窓生の活動の紹介

提供・発信できない内容

下記の内容は同窓会では取り扱いができませんので、あらかじめご了承ください。

- ・政治、宗教、思想に関する内容
- ・規定以外の個人情報に関する内容

同窓会ではこれからも新しい方法を含めて、情報提供や発信の機会や内容を充実していきます。

同窓生皆さままでご希望の方は、同窓会事務局(p.3の連絡先)までご連絡ください。



同期会・クラス会・クラブOB / OG会の開催支援



●学校での開催

母校の地下食堂で開催することも可能です。

学校での開催となりますので、下記の条件を遵守してください。

- ・授業や学校行事との調整が必要です。
- ・料理を提供することができます。(有償)
- ・飲酒は可能ですが条件があります。
- ・校内は禁煙です

●頒布品の提供など

- ・同窓会で企画製作した同窓会グッズを有償で提供します。
- ・同窓会会報誌を提供します。
- ・動画の上映などに必要なプロジェクタ等を貸与できます。(無償)

同窓会では同期会、クラス会、クラブOB/OG会の開催の支援をおこなっています。これらの会を開催したいときはぜひ、ご連絡ください。

●同窓会名簿データの活用

同窓会会員(卒業生や先生方)の個人情報は、同窓会の規約により提供することができません。皆さまに代わり発送の代行を行うことにより、個人情報を保護しながら多くの同窓生に連絡することができます。

※ 受取拒否を届け出ている方には発送できません。

●「開催案内」発送代行サービス

幹事の皆さまに代わり「開催案内」を発送を代行します。

A. 先生方(現役、退職された先生方)への発送

B. ご指定いただいた卒業年度、クラスを限定して発送

C. ご指定いただいた方に発送

幹事会でわかる範囲で発送をおこない、連絡先不明者だけ発送することも可能です。(C)

<手順>

① 発送する書面や返信はがきをご用意ください。

② 同窓会の封筒で発送します。

③ 返信は幹事会に戻ります。

費用は実費を申し受けます。詳細はお問い合わせ下さい。

同窓会ホームページのお知らせ



同窓会公式ホームページ

<http://www.ntdosokai.org>

同窓会のイベントや活動報告を掲載しています。年間スケジュールや会則をはじめ、同窓会の情報と、イベント開催時の写真なども豊富です。ぜひご覧ください！

同窓会 Facebook ページ

<https://www.facebook.com/NTH.Dousokai>

Facebookにも同窓会の公式ページがあります。こちらのサイトでは、同窓会活動をリアルタイムで掲載中！同窓生のお店紹介など、幅広い広報活動をしています。

同窓会 Facebook ページ "IZUMI"

同窓生参加型のFacebookページです。こちらのサイトでは、同窓生からのメッセージを中心に掲載しています。（同窓会 Facebook ページからリンクしています。）

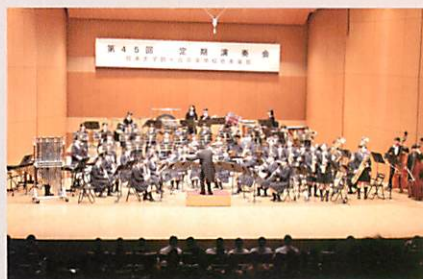
部活動などの活動予定

吹奏楽部定期演奏会

日時：令和2年3月18日(水) 17:30開場 18:00開演
場所：杉並公会堂 東京都杉並区上荻 1-23-15
JR・東京メトロ荻窪駅徒歩7分
入場料無料

活動予定募集中です！

Izumiでは部活などの活動予定をお知らせしています。同窓生の皆様にお伝えしたい部活の公式イベントなどございましたら事務局までご連絡ください。誌面上で同窓生にご案内いたします。



※個人情報の取り扱いに関しまして

個人情報はプライバシーポリシーを設け、会長が委員長となる
会員情報保護管理委員会にて適切な運用をしています。

プライバシーポリシーの全文は下記のWebページをご参照ください。

<http://www.ntdosokai.org/html/pp.html>

日本大学鶴ヶ丘高等学校 同窓会

発行人：阿部 栄介

Mail: tsurugaoka@ntdosokai.org

編集：会報誌制作委員会

URL: <http://www.ntdosokai.org>

日本大学鶴ヶ丘高等学校 同窓会誌

日本大学鶴ヶ丘高等学校同窓会誌
Izumi

2019年12月